

鏡川流域パートナーシップだより No.46 R5.4.14



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

日曜市に2度目の出店！鏡川流域の魅力を受講生がPR！

4月9日(日)、鏡川流域内関係人口講座受講生の小栗彩加さんが立ち上げた「土佐山ジンジャーエール日曜市出店プロジェクト」が日曜市に2度目の出店！このプロジェクトは、鏡川上流域で商品開発・販売を行う夢産地とさやま開発公社の取組に関わり、人手不足などの課題を解消したいという受講生の思いから発足しました。出店に向けて商品の仕入れや告知といった準備を重ね、先月から鏡川流域関係人口創出事業(担当:新エネルギー・環境政策課)のPRの一環で日曜市にイベント出店し、土佐山ジンジャーエールなどを販売して鏡川流域の魅力を発信しています。



机に被せた黄色い布は、流域外講座受講生が講座の一環で「青山ファーマーズマーケット」に出店し、鏡川流域の商品を販売した際に使用したもの。今回の日曜市出店に役立ててほしいとの思いから、流域外講座受講生から送られたそうです。講座は修了しましたが、鏡川流域を通じて生まれた受講生同士のつながりや関わりが今もなお継続しています！

当日は、流域外講座受講生が作成した「こじゃんと鏡川マップ」をブースに配置しました！鏡川流域の魅力が詰まったマップです。こうした素敵な広報ツールを活かして鏡川流域を紹介したり、土佐山ジンジャーエールの試飲を用意したりと、工夫を凝らしたPRを行いました。その熱意に惹かれてか、多くのお客さんがブースに立ち寄り、お昼過ぎには仕入れた商品が全て完売しました！

＼ 日曜市に出店したメンバーから感想をいただきました ＼

このプロジェクトで日曜市に出店するという貴重な体験をすることができて楽しかったです。たくさんのお客さんとジンジャーエールの話はもちろん、鏡川の話や公社の取組の話ができ、知ってもらう機会になれて嬉しいです。周りの出店者の方々にも、テントの立て方に手間取っていたら助言して下さったり、質問したらいろいろ教えて下さったり、いつも出店しているわけではない私たちにも優しくしてくださって、こういうところが「高知は人があたたかい」って言われる部分なのかなと実感しました。【小栗 彩加】



生産者でも販売員でもない、職業も年齢も違う人たちが、「日曜市で鏡川の事を知ってもらい取り組みをしたい」という思いだけで集まり、2回も販売できたことが、まずすごいと思いました。お金にならないけれど、人が集まる仕組みを作り続けられ、その中で経済活動が生まれたり、地域の問題が解決出来たりすると思いますので、このきっかけづくりに携われたのはとても有意義でした。テントや商品を運ぶため、軽トラをレンタカーで借り、南京結びという謎のロープ結びを覚え、往復1時間かけて商品とテントを取りに行った事は、大変でしたがやりがいがありました。【山本 翔太郎】



高知市民でもなく生産者でもない南国市民の私が中から関わったことは貴重な経験でした！

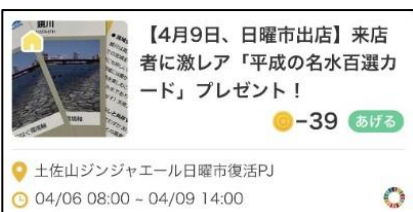
一番大変だったテント設営。とても興味深かったです。大変ではあったけれど、個人的には屋根に竹を使ったこのテントこそが日曜市の顔でもあるなと感じていて、このテントを残すことも大きな課題だなと思いました。

今回は良いお天気に恵まれましたが、風の日も雨の日も街路市を支えてきたテント。文化として残して行く方向と簡易化して新しい形を模索する方向。意見が分かれるところだとは思いますが、日曜市はよさこい同様、高知県民にとっても思い入れのある大切な街路市です。個人的には文化として残す取り組みも必要だなと感じています。すぐには無理かもしれませんが自分のためのこP Jの中でも考えて行きたいなと思います。

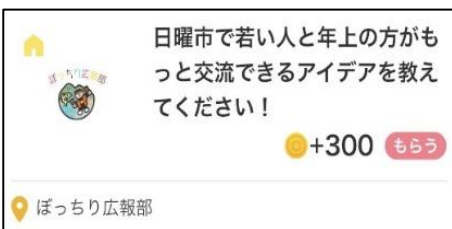
P Jリーダーの小栗さんの呼びかけに乗っからせてもらったことで、ただただあった思いを行動と形にすることができました。そして新たな気づきや思いを前にすすめてくれる素敵な取り組みでした。ありがとうございました。【大久保 真希】

日曜市P J、参加させていただいてありがとうございました。去年の今頃ではとても考えられなかった事です。流域内講座を受講できたことで、「P J」ができ、発案者、賛同者、実働部隊、公社の皆さんで実現するのに乗っからせていただきありがとうございました。

「日曜市」は外から見に行く、買い物に行くだけだったのが、講座をきっかけに、鏡川流域や、高知の気づきのきっかけになり、ちょっとだけですが、「中」に入って体験することが出来ました。周りの出店者さんは、最初「こいつら何者？」と思ったのが、だんだん「こんな人もおるがや」くらいに思い始めてもらえたのか？日曜市は、鏡川流域パートナーシップを実感、体験、発信する1つの「場」として活かせたらいいですね。【竹村 ちえり】



☎ 日曜市出店に関連して、「土佐山ジンジャーエール日曜市復活P J」のスポットからまちのコイン「ぼっちり」の体験チケットが数多く発行されました。鏡川流域に関わる人たちのつながりや動きが可視化され、プロジェクトの取組がさらに盛り上がりました！



☎ 日曜市の出店日に合わせて、「ぼっちり広報部」も体験チケットを発行し、プロジェクトの取組を応援！体験チケットの内容は、日曜市で若者と年上の生産者さんがもっと交流するためのアイデアを募集するものです。「参加したらお得になる企画」「出店者を紹介するパネルの作成」「通りすがりの若者にダンスを覚えてもらい、動画撮影をする」など、アイデアがたくさん集まっています。

No.46 ②



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android